



新消防庁舎には 「木質バイオマスボイラー」を導入しています



このたび、西町高台に建設した消防庁舎において、環境にやさしい熱源設備として「木質バイオマスボイラー」を導入しました。

本事業は、環境省と北海道の補助金を活用して整備したもので、間伐材などの木質チップを燃料として、庁舎内の暖房及び給湯に利用しています。

燃料となる木質チップは様似町内で生産されたものを使用しており、地産地消によるエネルギー利用を実現しています。



<西町高台に建設した消防エネルギーセンター>

■ 消防エネルギーセンター

木質バイオマスボイラー (120kw)	1台
チップ貯蔵量	40m ³
稼働日数	約15日間
CO2 排出削減効果(見込み)	年間80t



<木質バイオマスボイラー>

この「木質バイオマスボイラー」により、灯油などの化石燃料の使用量削減と二酸化炭素(CO₂)の排出抑制が期待されるほか、地域内での資源循環の促進や林業の活性化にもつながります。

様似町では、今後も環境に配慮した取り組みを進め、持続可能なまちづくりを推進していきます。



<燃料となる木質チップ>

■ 活用した補助金

環境省	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への 自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業)	36,164,000円
北海道	新エネルギー設備導入支援事業費補助金 (木質バイオマスボイラー設備導入事業)	36,164,000円